

MarketFinder@sp
Ver4.0.2追加／改修機能のご紹介

2025/11/26



MarketFinder@sp Ver.4.0.2 では、以下の機能追加／改修、不具合修正を行いました。

※ 機能追加・改修

- 「KML ファイル取り込み」機能の追加
- 「データ格納先を初期状態に戻す」機能の追加

※ 不具合修正

- ジオコーディングのマッチング精度向上
- 大量ファイルの住所マッチングにおけるプログレスバー表示の修正

1. 機能追加・改修

1.1. KML ファイル取り込み機能の追加

地図情報データのファイル形式の一つ、KML ファイルのインポートに対応しました。KML は Google Earth や Google マップで利用されている形式です。

まず操作方法について記します。その後、取り込むデータの制約等について記載します。

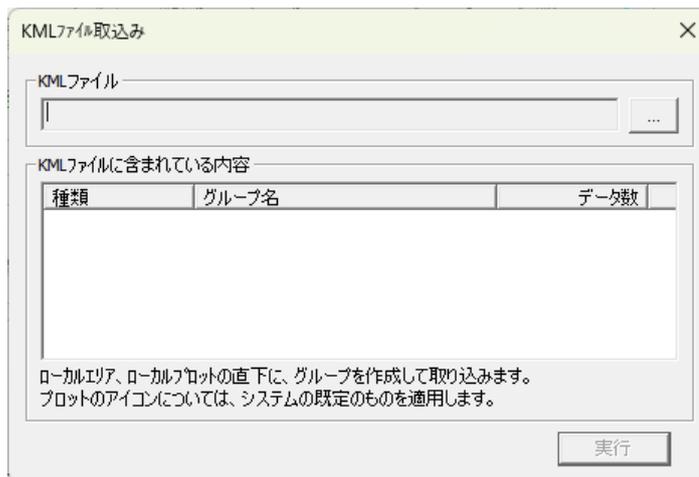
※ 操作方法

(1) KML ファイル取込画面の起動

「ファイル」メニューをクリックし、ドロップダウンリストから「KML ファイル取込み」を選択します。

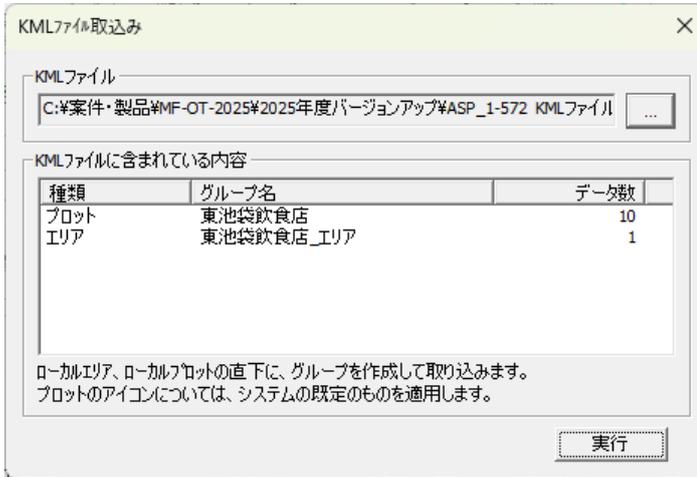


(2) 「KML ファイル取込み」画面が開きます。



画面内のファイルパス入力欄の右にある「...」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが開きます。取り込みたい KML ファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。

- (3) 選択したファイルに含まれている「データの種類」、「グループ名 (フォルダ名)」、「データ件数」が画面内に表示されます。

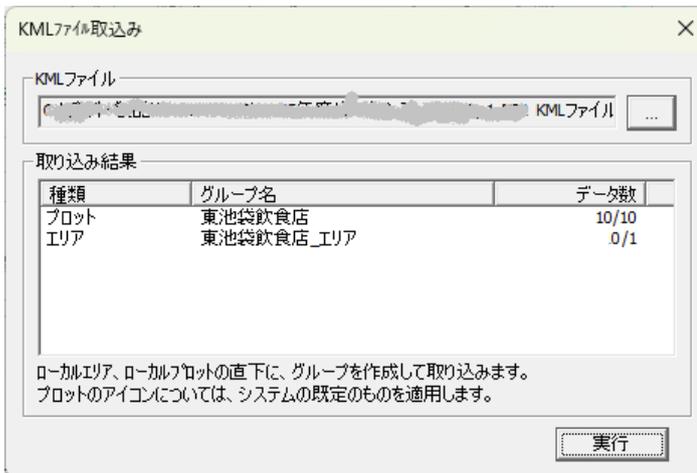


- (4) 表示された内容に問題がなければ、「実行」ボタンをクリックします。取込み処理の進捗状況がメッセージウィンドウに表示されます。

- (5) 取込みが完了すると、終了メッセージが表示されます。

- (6) 取り込み結果の表示

「KML ファイル取込み」画面に取り込み件数が表示されます。



- ・ 「データ数」の欄に、成功数／全件数が表示されます。
- ・ 取込みを中断した場合や、データ内容にエラーがあった場合は、エラーが発生したデータより直前までの取り込みは完了し、以降の処理は行われません。
- ・ 上図のように、特定のデータ (例:「東池袋飲食店__エリア」) にエラーがあった場合、その成功数は「0」と表示されます

※ 注意点

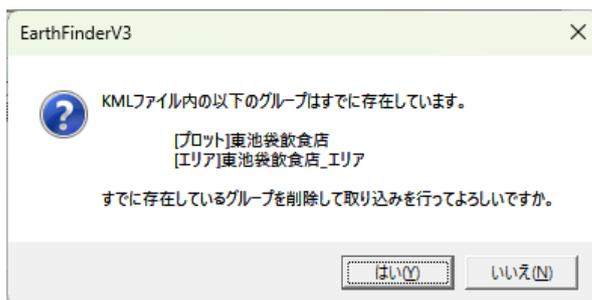
(1) 登録先グループのルール

KML ファイル内では、複数の「フォルダ」にエリアやプロットデータ（地物）を格納できます。本機能では、このフォルダの集まりをエリアグループ、プロットグループとして取り込みます。

- ・ グループ名
KML 内のフォルダ名がそのままグループ名として使用されます。
- ・ 登録場所
作成されたグループは、「ローカルプロットグループ」 および 「ローカルエリアグループ」の下に登録されます。

(2) グループ名が重複する場合の処理

取り込みを行う際、KML ファイル内のフォルダ名（=グループ名）と同じ名前のグループがすでにシステム上に存在している場合は、以下の警告メッセージが表示されます。



- ・ 「はい」 を選択した場合
すでに存在するグループを削除し、新しいデータを取り込みます（上書き）。
- ・ 「いいえ」を選択した場合
取り込み処理自体を行いません。重複していないグループも含め、一切のデータ取り込みがキャンセルされます

(3) プロットのアイコンの扱い

KML では、プロット（ポイント）のアイコンを URL 指定や同梱のイメージファイルで指定できますが、本システムで取り込む際は、KML ファイルでの指定は利用されません。

- ・ システム規定のアイコンが使用され、プロットグループのアイコンは常に「pin 赤」となります。



(4) プロット名称の設定

本システムではプロットの名称は属性項目から設定されますが、KML から取り込まれたプロットについては以下の処理を行います。

- ・ プロットの属性項目に 「PLOT_NAME」 という項目をシステムが自動で追加します。
- ・ KML の "name" タグの内容が、この 「PLOT_NAME」 項目に設定され、プロットの名称として利用されます。

項目名	項目値
PLOT_NAME	KFC 池袋サンシャイン通り店

(5) kmz ファイルの非対応

画像イメージなどのデータを含む KML ファイルを ZIP 形式で圧縮した .kmz ファイルが配布されることがありますが、本システムでは画像データを取り込まないため、kmz ファイルには対応していません。

- ・ 取り込み可能な KML ファイルの拡張子は .kml のみです。

(6) 細かな制約について

取り込み対象の KML タグなど、より詳細な技術的制約については、本ドキュメント末尾に記載いたします。

1.2. 「データ格納先を初期状態に戻す」機能の追加

※ 機能追加の背景

本システムでは、データの格納先としてシステムの既定の場所（デフォルトパス）を使用しています。この既定の場所はフォルダ階層が深いため、頻繁にバックアップを行うユーザー様にとっては不便な点がありました。

そこで、昨年のバージョンアップ（4.0.1）にて、データの格納先フォルダをユーザー様が任意で設定できる機能を追加しました。

※ 課題と機能の目的

しかし、データ格納先フォルダには書き込み権限が必要であるため、特に一台の PC を複数人で共有して使用されている場合に、他のユーザー様が書き込み権限を持たず、システム起

動時にエラーが発生するという問題が報告されました。

この問題が発生した場合、従来はお客様から弊社にご連絡いただき、データベース設定を直接変更する必要がありました。

今回のアップデートでは、このような問題にユーザー様ご自身で迅速に対応できるよう、システムの機能として「データ格納先を初期状態（システム既定の場所）に戻す」機能を新たに追加しました。

これにより、権限エラーが発生した場合でも、簡単な操作で問題を解決できるようになります。

※ 操作方法

(1) 機能画面の起動

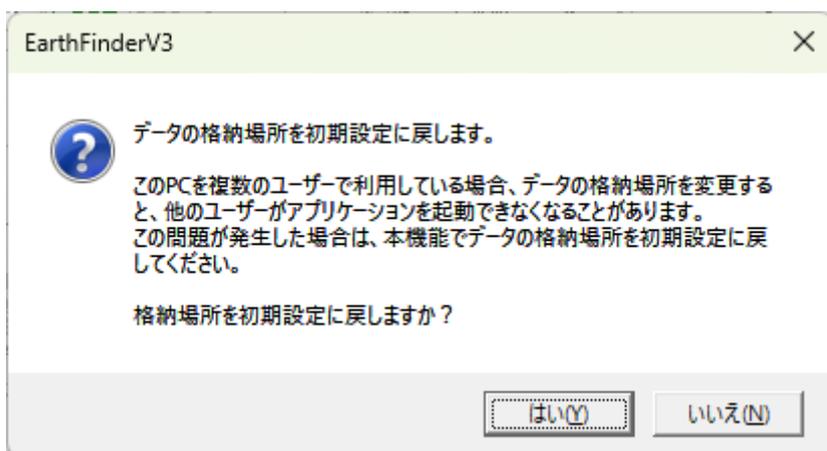
「ファイル」メニューをクリックし、ドロップダウンリストから「データ格納先を初期状態に戻す」を選択します。



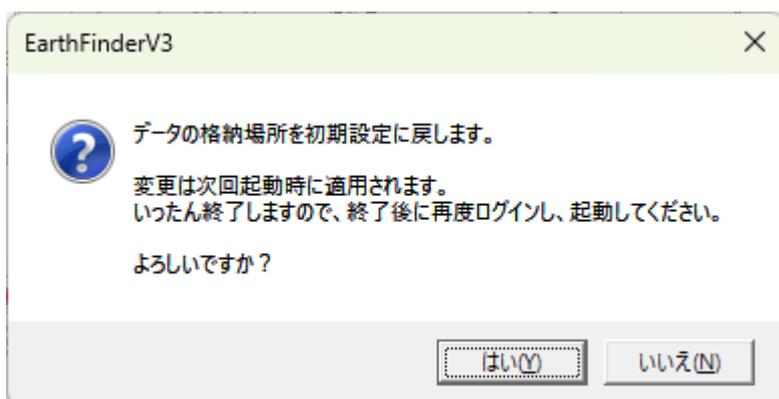
【重要】メニューの利用条件 このメニューは、データ格納先を変更したユーザー様のみ有効化されます。既定の格納先のままご利用いただいている場合は、メニューは無効（グレイアウト）表示となります。

(2) 初期状態への復元とシステム終了

機能を選択すると、初期状態に戻すことの最終確認画面が表示されます。格納場所を初期設定に戻す場合は「はい」をクリックしてください。



「いったん終了します」というメッセージが表示されます。ここでも「はい」をクリックしてください。



本システムが自動で終了します。

(3) 再起動

再度ログインして、本システムを起動し直してください。

2. 不具合修正

2.1. ジオコーディングのマッチング精度向上

ジオコーディング機能において、以下の特定の条件を満たす住所が町丁目レベルで正しくマッチせず、大字（おおあざ）レベルでのマッチングに留まる不具合が発生していました。

不具合の条件

- ・ 住所に「ケ」または「カ」の文字が含まれている。

- ・ かつ、その住所の番地部分に「数字に挟まれた半角スペース」がある。

修正前の挙動（不具合）の例：(架空の住所)

入力住所	修正前のマッチング結果	修正後のマッチング結果
神奈川県横浜市松ヶ丘 △1△29-2 (△は半角スペースを表 しています)	神奈川県横浜市松ヶ丘 (大字レベル)	神奈川県横浜市松ヶ丘1丁 目(町丁目レベル)

今回の修正により、上記の条件に該当する住所でも、より詳細な住所情報(町丁目や番地)までを正しく認識し、正確な位置情報にマッチングできるようになりました。
これにより、ジオコーディング機能の精度が向上し、より精度の高い位置特定が可能となります。

2.2. 大量ファイルの住所マッチングでプログレスバーがおかしい件の修正

大量の住所データをマッチング処理する際、データ件数が3万件を超える場合に、処理が完了していないにもかかわらず、画面に表示されるプログレスバー(進捗状況を示すバー)が100%になってしまう不具合が発生していました。
今回修正を行い、データ件数にかかわらず、プログレスバーが実際の処理進捗に合わせて正確に表示されるようになりました。

3. KML ファイル取り込みの技術的制約

KML ファイル取り込み機能に関する技術的な制約事項は以下の通りです。

※ 基本仕様と制約

項目	制約内容	備考
サポートバージョン	KML 2.0 または KML 2.2	
ファイル形式	.kml のみ	.kmz ファイルには対応しません(画像データなどを無視するため)
エンコーディング	UTF-8 固定	他のエンコーディングはサポートしません
非対応タグの処理	上記以外のタグは取り込み時に無視します。	エラーメッセージは表示しません。

※ 読み込み対象 KML タグとシステムでの対応

以下の KML タグが読み込み対象となります。

KML タグ	KML 内の役割・内容	本システムでの対応
Document	KML ドキュメント本体	
Folder	Point や Polygon をまとめるフォルダ。	プロットグループやエリアグループに相当します。Point と Polygon が混在することもあります。
Placemark	Point や Polygon のスタイル、属性、形状をまとめたもの。	個々のプロットやエリアに相当します。
name	Document、Folder、Placemark の名称。	Folder の名称をグループ名とします。Folder がない場合は、Document の名称をグループ名とします。Placemark の名称は、個々のプロットやエリアの名称となります。
Style	Polygon のスタイル定義。 (LineStyle と PolyStyle を子ノードに持つ。)	エリアグループのプロパティとしてセットします。Point で使用する IconStyle は無視し、プロットグループのアイコンは常にシステム既定のアイコン (pin 赤) をセットします。
MultiGeometry Polygon outerBoundaryIs innerBoundaryIs LinearRing coordinates	Polygon 形状の定義。 MultiGeometry は飛び地の場合に適用されます。 outerBoundaryIs は通常の単一ポリゴン、innerBoundaryIs は中抜きポリゴンを定義します。 coordinates は頂点座標列 (世界測地系度単位) です (経度、緯度、高度の順)。	個々のエリア形状としてセットします。coordinates 内の高度情報は無視します (高度の記述がない場合も読み込み可)。
Point coordinates	Point 座標の定義。coordinates は座標 (経度、緯度、高度の順)。	個々のプロット座標としてセットします。coordinates 内の高度情報は無視します (高度の記述がない場合も読み込み可)。

styleUrl	スタイルの参照先の定義。	通常の URL 指定 (http://~) は無視し、「#」で始まる KML 内のスタイルのみ参照可能とします。
Schema SimpleField	属性項目の定義。SimpleField で個々の属性の名称と型を定義します。	プロットグループやエリアグループの属性項目として取り込みます。
ExtendedData SchemaData SimpleData	属性値の定義。SchemaData で参照する Schema を定義 (KML 内 の み) し、SimpleData で属性項目に対する値を定義します。	個々のプロットやエリアの属性値として取り込みます。

※ 複数の要素が存在する場合の処理

- ・ Style の扱い: Style は複数定義可能ですが、最後に取り込んだ Style をエリアグループのプロパティとしてセットします。
- ・ Folder 内の混在: 複数の Folder がある場合、または Folder 内に Point と Polygon が混在する場合は、それぞれを別のグループとして取り込みます。
- ・ エラー発生時の処理: 取り込み処理中にエラーが発生した場合、その時点で取り込み処理を打ち切ります (エラーが発生したデータ以降は処理されません)。

以上